

人々取ものもその取も最早義光より一左右の届りも
多くし各々夜に陣を引拂ひれりて引退く能る
不日能登守佐木越前里見越後にはよしと義光
之中に速に既に加勢軍中今度上方鋒起の事には教
き各領内へ引退く事加勢の時速に立ちて為め起
文速にのち平にその軍中もよく制へ一左右もよく引退
きし、各々ありしごとく逃散し引退くべき所は
義光を押留めしむるありとてその理を度しぬる人と
せば定て同士軍とある時敵に陣をうかひらるの二
又強き沙汰に及びて結局敵方へ一味の非をも出ん時

却て家康と對しと不忠となりし流玉一同悔起のよ
きけ来るるをその面を領内もあやうくおひ退き
各もこのはりなり元来家康一命とて家康と推し
まんとある上におの人の親業もも苦かりは上其
方達に働き肝要なり、う成大軍に去あるより不覚
に取まきとて理を度して宣ひてつれも所定むと同一
なり去程に加勢北流船にそき、なるに兼山の害所にた然
りお前関守丹波典頼もあなり、なり加勢の悉く引退
を又その何程に解りぬと思ひ本戸押堅めて通させ
各是を見ても速本戸を開き通せしと使者を以て中